

令和4年度 児童発達支援 ガイドラインに基づく 自己評価結果

台東区松が谷福祉会館 こども療育室
令和5年1月公表

台東区松が谷福祉会館こども療育室では、区内在住のお子さんに提供している「児童発達支援」及び「放課後等デイサービス」の支援の質の向上・支援内容の適正化に向けて、ガイドラインに基づく自己評価を実施しました。下記のとおり、結果を公表いたします。

●実施期間	令和4年 12月	
●回収率	児童発達支援	96.8% (123/127人)
	職員	100.0% (30/30人)

	項目(骨子)	保護者・職員アンケートからの考察	こども療育室からのコメント・改善目標、工夫点など
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・利用定員や職員配置数の適切さ ・わかりやすく構造化された生活空間 ・バリアフリー化や情報伝達等への配慮 ・清潔で心地よく過ごせる環境 ・子供達の活動に合わせた空間 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員、スペース、職員配置等は基準を満たしているが、より良い環境が求められている。 ・清掃や安全点検に努めているが、建物の老朽に伴う設備の使いにくさや心配が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、グループの人数を見直したことにより、空間にゆとりを感じていただきました。丁寧な支援に努めていますが、お子さんの自主性や判断を促したりする場面等で見守る体制をとる場合があることをご理解いただけますと幸いです。 ・建物の経年劣化に伴う構造上の課題があることは認識しています。ご意見を参考に、換気の調整や危険箇所の補修等をしていきます。また、今後も設備や環境の整備、日々の清掃などを通して清潔で明るい雰囲気づくりを心掛け、安心して通所していただけるよう努めていきます。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルへの職員参画 ・事業所評価の実施と業務改善 ・事業所自己評価と結果の公開 ・第三者評価の実施と業務改善 ・職員研修の機会確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施しているものの、周知が十分ではないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員打合せや職場内研修、自己評価(平成30年度より実施)、第三者評価(平成28年度、令和4年度実施)を通して業務改善に繋がっています。また、より良い支援を検討するための会議(外部講師含む)や外部研修への計画的な参加により、職員の更なるスキルアップを図っています。今年度は、感染症対策を講じて全職員が集合した職場内研修を再開しました。 ・平成30年度より、自己評価結果を区のホームページで公開しています。
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントとニーズや課題の分析 ・標準化されたアセスメントツールの使用 ・ガイドラインに即した支援内容の設定 ・子供の状況に応じた児童発達支援計画の作成 ・児童発達支援計画に沿った支援 ・活動プログラムのチーム立案と非固定化の工夫 ・支援前の職員打合せと役割確認 ・支援後の職員打合せと振り返り ・支援記録の徹底と検証、改善 ・定期的なモニタリングと計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達評価や児童発達支援計画に基づく活動プログラムの設定および見直しについて、一定の評価をいただいた。 ・一方で、一部の支援について不足と感ずるご意見を頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理評価をはじめ、言語・運動面の標準化された各検査により全体の発達状況を把握したうえで、児童発達支援管理責任者を含む多職種によりガイドラインに基づく支援計画の作成及び活動プログラムの決定を行っています。 ・さらに、支援前後の綿密な打合せやケース会議、モニタリング、館内相談事業所との連携等、様々な機会を通し総合的な判断のもと支援計画やプログラムの見直しを行っています。 ・今後も、保護者の希望や願いをお聞きしながら、一人ひとりのお子さんに合わせた支援計画の設定や工夫された活動プログラムの提供に努めていきます。
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児相談支援事業所サービス担当者会議への参画 ・母子保健、子育て支援等の関係者、関係機関と連携した支援 ・保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援 ・子供の主治医や協力医療機関等との連絡体制 ・保育園、認定こども園、幼稚園等との情報共有と相互理解 ・小学校、特別支援学校との情報共有と相互理解 ・他の専門機関との連携、助言や研修の機会 ・地域の子供・子育て会議等への参加 ・発達の状況や課題についての、保護者との共通理解 ・保護者への家族支援プログラム提供による支援 ・保護者同士の連携支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭支援プログラムの提供の仕方に不足を感じるご意見をいただいた。 ・保護者同士の連携の設問で回答を迷われた保護者が4割いた。感染症対策としてご理解はいただいているものの要望への対応が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立・私立問わず保育園、こども園、幼稚園等との連携を積極的に進め、地域全体の子育て支援力の向上に努めています。今後も、保護者同意のもと連携を進めていきます。 ・家庭支援プログラムは集まりや密を避けるために縮小して実施したり、内容を変更(Q&A形式のお便りや資料提供など)して行いました。心配が多い就学に関しては、事前アンケートでニーズを把握し、例年の座談会よりも多くの事例紹介をするなどお便りを充実しました。今後も、関心が高い就学に関する情報提供の仕方について引き続き検討していきます。 ・保護者同士の連携は、コロナ禍で仕方がないというご意見が多いなか要望もありました。安心してご参加いただけるような交流の機会が提供できるよう今後の検討に繋がっていきます。
保護者への説明等	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規程、利用者負担等についての丁寧な説明 ・児童発達支援計画に基づいた支援内容説明と保護者同意 ・保護者相談を通した必要な助言や支援 ・子供や保護者からの相談への体制整備と迅速かつ適切な対応 ・子供や保護者への、活動概要や行事予定等の情報発信 ・個人情報取り扱いの厳守 ・障害のある子供や保護者との意思疎通、情報伝達への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談や育児相談に関して8~9割の方に満足いただいた。 ・情報発信に関する項目で、回答を迷われた保護者が3割ほどおり、発信や周知の仕方に工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者と専門職が連携して保護者相談に対応しています。お子さんの発達状況について共通理解をもったり適切な助言を行うことで、保護者の悩みや不安を軽減できるよう今後も丁寧な相談支援に努めていきます。 ・年間予定表を配付して家庭支援プログラムの見通しがたつようになり、掲示板を整理して各種情報の発信の仕方を工夫しました。感染症対策として、速やかな退室をお願いしているため、ご覧いただく余裕がないかもしれませんが、引き続き掲示のタイミングでアナウンスするようにしていきます。
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に関する各種マニュアルの策定と周知 ・災害を想定した訓練の実施 ・服薬、予防接種等の子供の状態確認 ・ヒヤリハットの作成、共有 ・虐待防止に向けた対応 ・身体拘束に関する説明等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルや避難訓練についての設問で回答を迷われた保護者が2~3割いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを策定して職員に周知徹底しているほか、必要に応じてピンポイントで情報掲示を行っています。 ・保護者を行う避難訓練は避難経路確認のみですが、職員は会館の消防計画等に基づく年3回の避難訓練を実施しています。今年度は、会館全体で地震と消防の避難訓練、不審者対応訓練を実施予定です。実施後に、訓練の様子を共有させていただきます。
安心・満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策は講じられているか ・子供は通所をたのしみにしているか ・事業所の支援に満足しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限があるなかでの工夫した療育提供に関して、多くの方にご理解をいただいた。 ・9割強の保護者に満足と回答をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策については多くの保護者にご安心をいただきました。頻度等は不足と感ずるご意見もあり、療育に対する期待として受け止めています。安心・安全に、かつ多くのお子さんに行き届く支援を検討した体制であることをご理解いただけますよう改めてお願いいたします。引き続き、より質の高い支援が提供できるよう創意工夫を積み重ねていきます。 ・ご要望の全てに応じるのは難しいですが、今後も一人ひとりのお子さんご家族に合わせた支援を心掛け、少しでも満足に近づけるよう努めていきます。